

# Fund Basic

イチカラマナブ、ファンドノレッスン

2014年12月16日 Vol.2

今回の  
レッスン

## 「何に投資しようかな」と考えていたら、 年内申し込み最終まであと少しですよ！

### NISA口座、作っただけで満足していませんか？

2014年も残り僅かとなりました。今年はNISA（少額投資非課税制度）がスタートし、今まで投資に関心がなかった人にも投資するきっかけや理由ができた年でもありました。

NISA口座は作ったけれど、まだどの資産にも投資していない！という方…結構いるのではないのでしょうか？実は口座を作っただけで何も投資していないという人がNISA口座全体の約7割もいました。（2014年8月末時点）

では、既にNISA口座で投資している人はどの資産に投資しているのでしょうか？

結果は、**投資信託が約7割で残りの約3割は日本株式の個別銘柄でした。投資信託で人気があるのは、米国リートに投資するタイプやオーストラリアの国債等に投資するファンドでした。**

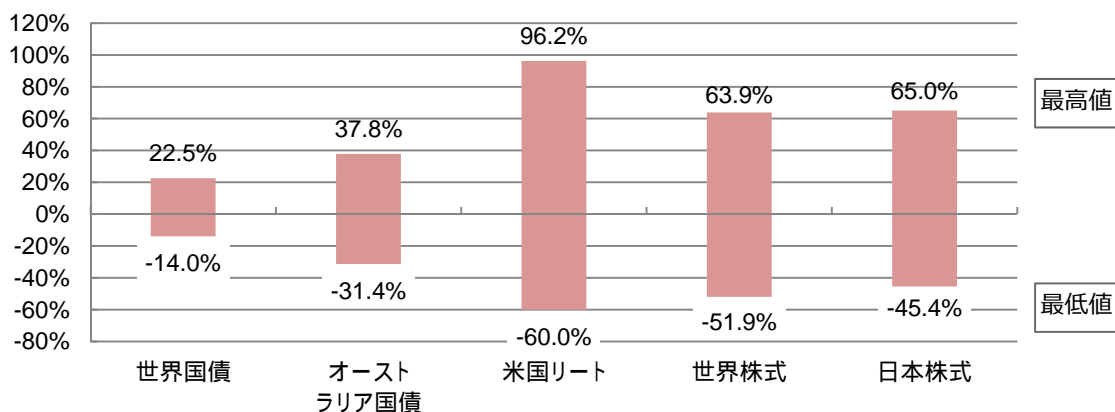
どうやら、人気があるのは1つの国や資産に投資するタイプのファンドですが、投資信託の基本には「分散投資」なる言葉があります。

### 「分散投資」最強伝説はホント？

1つの国や資産に投資するタイプのファンドは、上昇・下落の理由が分かりやすいことや値動きの大きい資産に投資した場合、上昇する局面では様々な資産に分散投資するよりも上昇しやすい

というメリットがあります。しかし、昔から「分散投資」が唱えられていることにはそれなりの理由があります。それは「**価格のブレ幅の安定性**」です。

○ 各資産の年間収益率  
(円換算、月次、年率、期間：2004年11月末～2014年11月末)



「価格のブレ幅の安定性」とは、市場が下落した際、下落幅をどれだけ抑えられるかどうかということです。

1ページ目のグラフは、NISA口座で人気が高い米国リート、オーストラリア国債と日本株式、分散された世界国債と世界株式を過去10年間の月次データを使用し、各資産を1年間保有した場合、どれだけ上下にぶれるのかを最高値と最低値で示しています。

例えば、オーストラリア国債をみると、非常にいいタイミングで投資した場合、1年間で37.8%のリターンが期待でき、逆にタイミングの悪いときに投資すると31.4%のマイナスとなる可能性を示しています。

では、世界各国の国債に分散投資する世界国債の数値と比較してみましょう。一番下にある「最低値」を見ると、世界国債の最低値は-14.0%であり、オーストラリア国債に比べて価格のブレ幅が

小さくなっています。

ただ、分散投資している資産はその分「最高値」は低くなる傾向があります。

人気の米国リートを見ると、上昇するときの期待も大きいですが、下落するときも覚悟する必要があります。一方、世界株式は様々な国に分散投資しているため、下落幅を抑えることができます。投資する時、どの位のリターンを期待したいのか、そのためにどの位のリスクを許容できるのか、その見極めが大切といえそうです。

**ひとついえることは、単一の国や資産に投資するよりも「分散投資」というアイテムを使ったほうがハラハラは少なそうです。**

リスクを取るなんて…だから投資はイヤという方も多いと思います。

しかし、人生リスクだらけです。就職も結婚も…投資は「分散投資」できるだけ良いのかもしれない。

## 「NISA」 meets 「積立投資」

他にも「分散」投資をオススメしたい理由があります。

### 「資産の分散」

債券、株式や金など景気の良い時、悪い時にそれぞれの局面で強みを発揮する資産にバランスよく分散投資し、どのような局面が来ても対応できるようにしておけば、市場環境の変化を気にして資産を売ったり買ったりする必要がなくなります。

### 「時間の分散」

投資するタイミングを分けてみる、というのも重要です。

今が投資していいタイミングかどうか、見極めるのは難しいですね？そこで複数回に分けて投資することや一定期間に一定金額をコツコツと投資していくことも有効です。

**実は、NISAで投資している方の約1割が積立で投資しています。（2014年9月末時点）**

積立投資のメリットは、基準価額が低い時には口数を多く購入することができ、定期的に購入するため、平均の購入単価を平準化することができる点です。

また、非課税枠が100万円といわれても「まとまったお金がない…」という方にもオススメです。

NISA元年の非課税投資枠、100万円は翌年に持ち越すことはできません。

何に投資していいかわからない！という方は、まずは「分散投資」をキーワードに投資する資産を選んでみてはいかがでしょうか。

**投資信託の最終お買付日は12月19日注、国内株式の最終お買付日は12月25日です。**

注：投資信託は受渡日が7営業日の銘柄の場合。銘柄によっては、ご注文不可日となる場合もありますのでこれ以前に最終お買付日が到来するものもあります。詳しくは各販売会社にお問い合わせください。

当資料で使用している指数

世界国債：シティ世界国債指数、オーストラリア国債：シティ・オーストラリア国債指数、米国リート：FTSE/NAREITオール・エクイティ・リート指数、世界株式：MSCI世界株価指数、日本株式：TOPIX 出所：ブルームバーグのデータを使用しビクテ投信投資顧問作成 MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

当資料をご利用にあたっての注意事項等 当資料はビクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。当資料に記載された過去の業績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的の適合性を保証するものではありません。当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。